まちづくり通信　2024 年初春 NO.114

みはま 市民ネットワーク

編集・発行　市民ネットワークみはま

◎事務所
千葉市美浜区高洲 3 丁目 20-45　細矢ビル 403 号室
TEL/FAX　043-278-5005　E-mail mihama@chibanet.jp
配布地域 美浜区　配布部数：25000 部

児童相談所にパンを届けるプロジェクト

12 月 20 日、児童相談所（高浜）の一時保護所の子どもたちにクリスマスプレゼントを届けました。クリスマスのサンタのパンと共に、未就学児から高校生まで楽しめる、カードゲームやボードゲームを贈りました。

プレゼントのボードゲームなど

みなさんの寄付で継続することができます

◎郵便振替
00170-7-180047
市民ネットワークちば みはま事務所
- **パンプロジェクト寄付と明記ください。**
- **振込手数料はご負担ください。**

◎事務所に持参
平日 10 時から 16 時まで開所しています。

会計報告

2023 年寄付合計	184,500 円
パン代（11 か月＋クリスマス）	87,900 円
プレゼント（夏・冬）	48,341 円
支出合計	136,241 円

みはま 大人の学校　2023 年 11 月 13 日報告

植物を使ったセラピー & 議会報告

11 月の「大人の学校」は、「植物を使ったセラピー」と議会報告でした。
　フラワーセラピストの山口さん持参のカゴが開けられると、部屋全体に芳香がただよいます。ゼラニウム・ミント・ローズマリーの香りの中での楽しい教室でした。
　植物を使って五感をフルに刺激する「植物パズル療法」という耳慣れない言葉でしたが、高齢者施設等で、癒し（リラックス）を提供するものとして、リハビリの効果が認められています。華道やフラワーアレンジの美しさを求めることとは違い、材料は庭の植物や枝、枯葉など、入れ物はお花が 2.3 輪入る瓶や缶でもいいそうです。
　ブルーのフワフワしたアゲラタム、黄色のメランポジウムに交じって、のばらの赤い実やいぬたでや、かやつり草も参加しています。
　コミュニケーションが増え、家族の笑顔が増えたと言われるのもうなずける楽しい時間でした。その後、議会報告会をおこないました。　田平（真砂）

参加者のセンスが光る作品

令和 6 年能登半島地震で被災されたみなさまにお見舞い申し上げます

市民ネットワークでは、義援金を集めています。
事務所に「カンパ箱」を用意しています。なお、物品寄付は受け付けていません。

市民ネットワークでも郵便振替を用意しています。
郵便振替口座　00190-2-184191　市民ネットワーク千葉県
備考欄には「義援金」「令和 6 年能登半島地震」どちらかをお書きください。
（振込み手数料はご負担ください）

皆様から預かった義援金は、責任をもって石川県に直接届けます。

地震でカタチが変わった珠洲市の見附島

医療・福祉・障がいのトリプル改定って？

2024 年は医療報酬や介護報酬、障害福祉サービスの報酬単価の見直しが同時に行われる年であり、改定前から議論が高まっています。

身近な介護保険の改正点は、何と言っても 2 割負担の人を増やす国の方針についてです。専門家から利用者まで、幅広い反対の声が上がり、今年度の改定は見送られましたが、何と訪問介護事業所の報酬が下げられることが決まり、関係者の間に激震が走っています。

その他には、現在要支援 1，2 の方のケアプランを、民間の介護保険事業所のケアマネージャーが作れるようになるとの事。今後は要支援の方も直接民間の事業所に頼めるようになるという事のようです。

しかしこれには大きな問題があります、介護保険事業所に聞くと、要支援 1，2 の人のケアプランを作る余裕はない、ケアマネ不足の現状との事。いくら報酬単価を見直して国の求める方向に誘導しようとしても、進まない事は進みません。

今回この原稿をまとめるにあたり厚労省の審議会の会議録などを読みましたが、話されていることに既視感がありました。かかりつけ医の問題や医療介護連携の問題など、10 年来変わらないような議論に見えました。現場は少しずつ進んでいると思いたいですが、2025 年には団塊の世代全員が 75 歳以上になります。ケアマネやヘルパーのなり手が圧倒的に不足している現状の改善を急いでほしいと思います。　　岩橋（磯辺）

＊みはまネットでは「医療と介護のオンラインおしゃべり会」を毎月開いています。関心のある方は、事務所にご連絡ください。

参加者募集

知りたい！美浜区の高齢者施設 &フィールドワーク

4 月 25 日（木）13:30～　みはまネット事務所

美浜区の高齢者施設は、どのような種類があるのか、違いは何？どこにあるの？
資料などを見ながら学びましょう。説明後にはオプションで車で施設を廻り、外観から施設の場所を見に行きます。

＊施設の場所を見るオプションツアーは先着 6 人です。
参加申し込みの際にお伝えください。
043-278-5005　市民ネットワークみはま

戦争の話を聞かせてください 17

現在もウクライナ、パレスチナはじめ世界各地で武力による紛争が続き、市民の命と暮らしが脅かされる痛ましい状況が続いています。当たり前の日常を続けるために、身近な住民が味わった苦難の歴史を振り返ること、そして紛争を乗り越えるための対話を美浜区から広げていくことが必要と考えます。
曖昧な記憶でも、家族から聞いた話でも構いません。お話頂ける方を募集しています。

打瀬在住　1930 年（昭和 5 年）生まれ　男性

開戦時は小学 5 年生。日本の勝利を報じる大本営発表を信じ、「お国のために死ぬのは当たり前」と考え、大人の命令に絶対服従だった。軍隊へ入る近所のお兄さんを大人と一緒に「おめでとう」と送り出した。

中学に進むと、労働力不足を補うための「学徒動員」で農作業や工事に動員され、学校へはほとんど行けなかった。土を運び、道路をつくった。

中学 3 年生の 8 月 14 日、「明日は動員に来なくて良い。お昼にラジオを聴け」と言われた。翌日は遊びに行ってしまったが、帰宅したら戦争が終わっていた。その後も、燃料不足だったり、教科書やプリントも不十分で、半年くらいは満足に勉強ができなかった。

打瀬在住　1926 年（大正 15 年）生まれ　女性

東京の下町に住んでいたが、米軍の B29 爆撃機が頻繁にやってきて、寝られない日々が続いた。自宅前に風呂屋があったが、延焼防止のため強制立ち退きとなり、空地になっていた。

イメージ書籍

3 月 10 日の東京大空襲の際、多くの人がこの空地に集まってきたが、「ここにいたら焼け死ぬ」との声があがり、何人かが川に移動した。自分は「どうせ死ぬなら家の近くで」と思い、行かなかった。その後、川に爆弾が落ち、行った人は 1 人も戻ってこなかった。

火の粉から子どもを助けようとしてお腹の下にかくまっていた母親がいたが、親子とも助からなかった。押されて亡くなった子もいた。

このようにおしゃべりができる「平和」がよい。

聞き手：松井（打瀬）

みはま情報メールに登録を！

みはまネットのイベントや、市議会や、千葉市のパブコメ情報、県や国の動きでお伝えしたいことを、不定期でメール発信しています。無料です。ぜひメールアドレスを登録してください。